

公表：(修正後) 令和3年8月27日 (A)

令和4年12月9日 (B)

(現 行) 平成30年1月

①中央アルプストンネル（松川工区）

(1) 事業概要等

- | | |
|----------|---|
| ① 名 称 | 中央新幹線、中央アルプストンネル（松川）外工事における環境保全について～中央アルプストンネル（松川）～ |
| ② 事業実施区域 | 飯田市 鼎切石地先及び上飯田地先 |
| ③ 工事の概要 | 本線トンネル掘削工、 工事用トンネル掘削工 (A) 、工事施工ヤード整備工（右岸、 左岸 (B) ）、坑口部（中央アルプストンネル、風越山トンネル (B)）切土工・法面工、工事用道路設置工（右岸、 左岸 (B) ） ※赤字の内容を追加 |
| ④ 修正の内容 | <p>A 工事計画の具体化に伴い、工事用トンネル掘削工を追加</p> <p>B 松川左岸の坑口部（風越山トンネル）の工事計画の具体化に伴い、松川左岸における工事施工ヤード整備工、工事用道路設置工及び坑口部（風越山トンネル）切土工・法面工を追加</p> |

(2) 修正に伴う環境の変化

A 工事用トンネル掘削工の追加

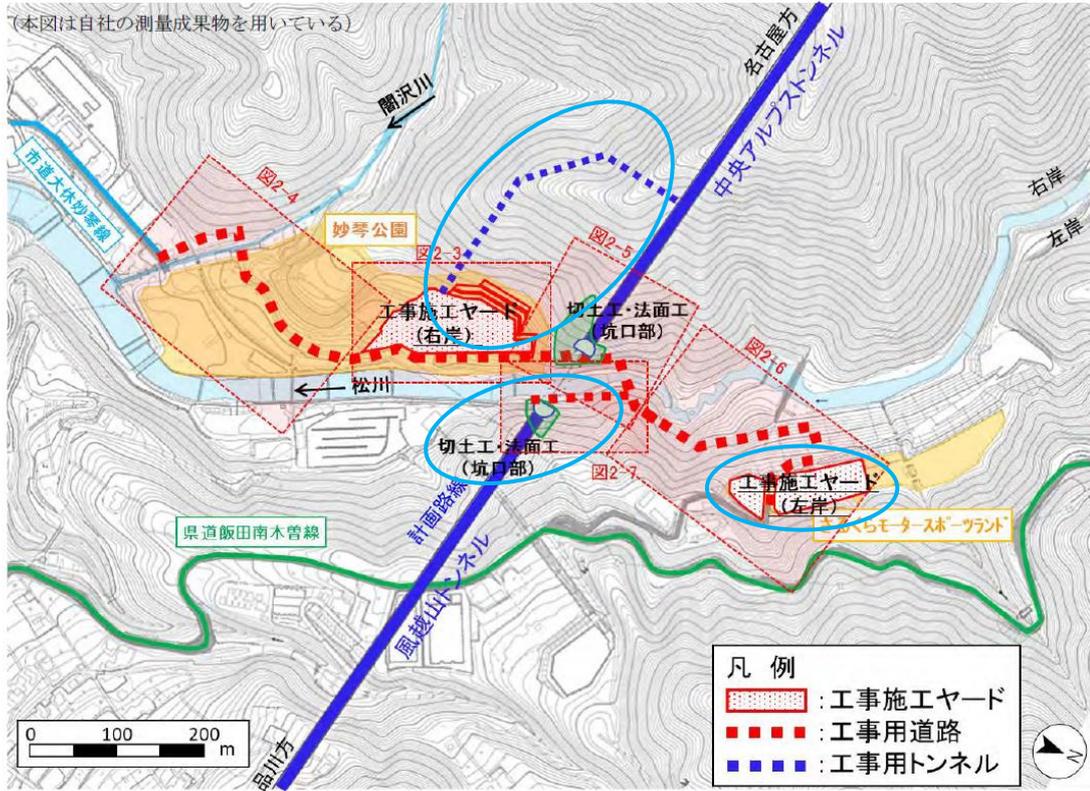
- 騒音・振動
工事用トンネル掘削工においては発破を行うが、防音扉等の対策を実施することで、本線トンネル掘削時と同程度以下になると予測。
- 動物（鳥類）
工事用トンネル掘削工は松川右岸側であり、重要種は主に松川左岸側で確認されていることから、影響は小さいと予測。
- 植物
工事用トンネル坑口付近の重要種は、移植・播種済みであり、影響は小さいと予測。
- 水資源
工事用トンネル掘削工により地下水の予測検討範囲が追加になるが、大きな範囲の追加はなく、影響は小さいと予測。
- その他の環境要素
環境影響の著しい増大は想定されにくい。

B 松川左岸における坑口部（風越山トンネル）切土工・法面工等の追加

- 騒音・振動
追加される松川左岸側の工事と、従前から計画されている松川右岸側の工事の工期が一部重なるが、近隣におけるその際の騒音・振動の値が以前の工事（支持杭打設）と同程度以下になると予測。
- 動物（鳥類）
追加される松川左岸側の工事箇所と近傍の営巣箇所との距離は、従前の計画よりも離れており、影響は小さいと予測。
- 植物
追加される松川左岸側の改変範囲内において、直近の調査でも重要種は確認されなかった。
- その他の環境要素
環境影響の著しい増大は想定されにくい。



いずれも、修正により環境影響の著しい増大は想定されないと見受けられる。また、従前の計画から工種や施工方法等の変更はなく、事業実施区域の著しい増大は想定されない。



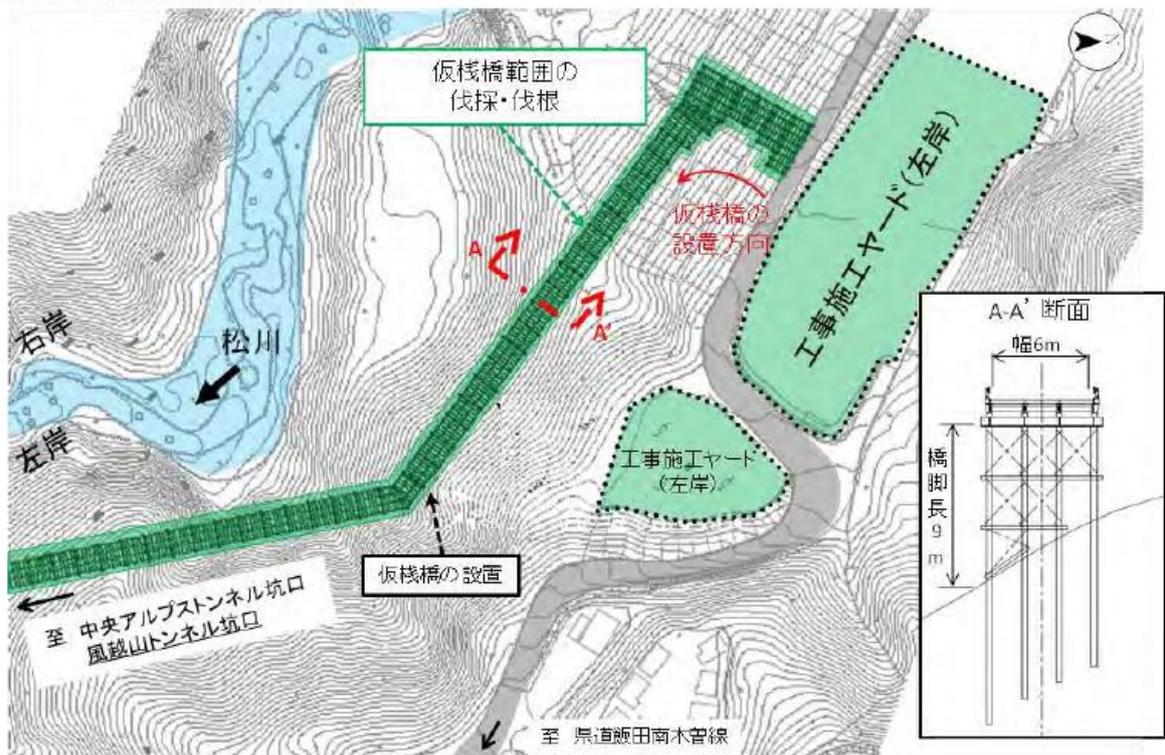
※今後の協議等により位置等が変更になる可能性がある。

図 1-1 全体工事計画

※追加箇所は水色の丸部分。工事用トンネル掘削工、工事施工ヤード（左岸）、坑口部（風越山トンネル）切土工・法面工及び坑口部（風越山トンネル）への工事用道路（分岐点から南東方向の仮栈橋）を追加

出典：「中央新幹線、中央アルプストンネル（松川）外工事における環境保全について～中央アルプストンネル（松川）～（平成 30 年 1 月）」（令和 4 年 12 月 9 日差替版）図 2-2（p.2）※一部加工

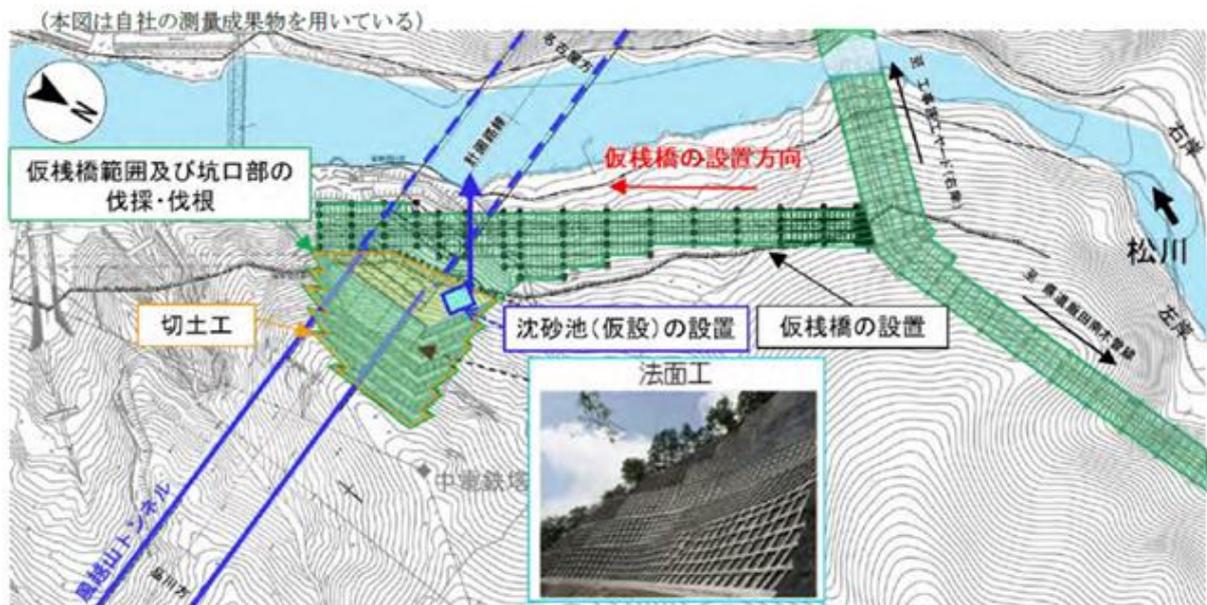
(本図は自社の測量成果物を用いている)



※今後の協議等により位置等が変更になる可能性がある。

図 1-2 工事施工ヤード（左岸）

出典：「中央新幹線、中央アルプストンネル（松川）外工事における環境保全について～中央アルプストンネル（松川）～（平成 30 年 1 月）」（令和 4 年 12 月 9 日差替版）図 2-6（p.4）



※今後の協議等により位置等が変更になる可能性がある。

図 1-3 坑口部（風越山トンネル）切土工・法面工及び仮設栈橋（分岐点から南東方向）の設置

出典：「中央新幹線、中央アルプストンネル（松川）外工事における環境保全について～中央アルプストンネル（松川）～（平成 30 年 1 月）」（令和 4 年 12 月 9 日差替版）図 2-7（p. 5）

②大鹿村内発生土仮置き場

公表：(修正後) 令和4年12月26日
(現 行) 令和2年2月

(1) 事業概要等

- ① 名 称 大鹿村内発生土仮置き場における環境保全について
大鹿村内発生土仮置き場における環境の調査及び影響検討の結果について
- ② 事業実施区域 大鹿村内の発生土仮置き場計画地3か所 (A,B,E) のうち、計画地 E
- ③ 工 事 の 概 要 (発生土仮置き場計画地 E) 面積：約 20,000m²、容量：約 150,000m³、最大盛土高：約 15m
うち、一部を要対策土仮置き箇所へ変更 ※赤字の内容を追加
- ④ 修正の内容 発生土仮置き場計画地 E において、通常の発生土の仮置き箇所の一部を、新たに要対策土仮置き箇所とする
(自然由来の重金属等の不溶化による要対策土の有効活用を検討するため、試験的に要対策土を不溶化し、仮置きする。最大盛土高は従前の計画通り。)

(2) 修正に伴う環境の変化

○水質・土壌汚染

不溶化した対策土については、試験のため基本的に防水シートで覆わないが、従前から発生土仮置き場計画地 E において計画されている要対策土に対しての環境保全措置 (アスファルト舗装、側溝や濁水処理施設の設置等) を実施するため、環境影響の著しい増大は想定されにくい。

○その他の環境要素

環境影響の著しい増大は想定されにくい。



修正により環境影響の著しい増大は想定されないと見受けられる。

また、従前の計画から工種や施工方法等の変更はなく、事業規模や事業実施区域の著しい増大は想定されない。

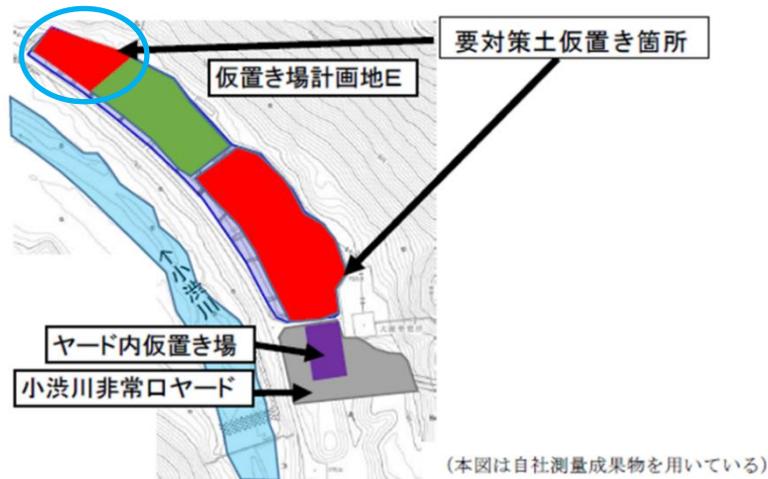


図 2-1 要対策土仮置き場箇所

※修正箇所は水色の丸部分。従前の計画において通常の仮置き箇所 (緑色) としていた部分を、要対策土仮置き箇所 (赤) に変更。

出典：「大鹿村内発生土仮置き場における環境保全について (平成 28 年 9 月)」 (令和 4 年 12 月 26 日差替版) 図 2-6 (p. 2-5) ※一部加工

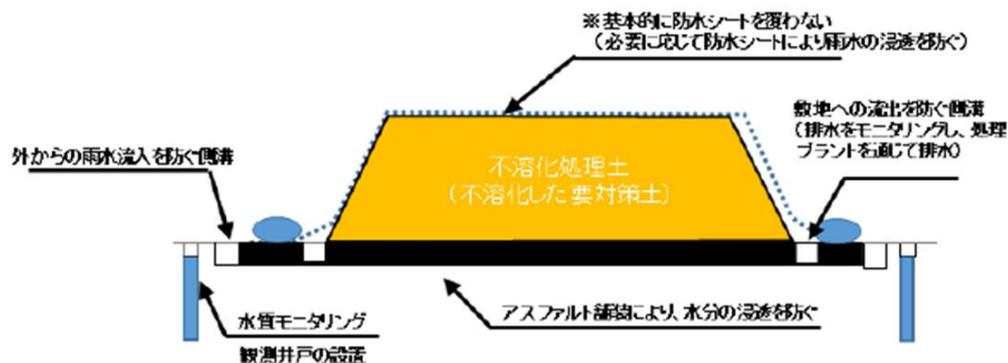


図 2-2 試験盛土に関する環境保全措置

出典：「大鹿村内発生土仮置き場における環境保全について (平成 28 年 9 月)」 (令和 4 年 12 月 26 日差替版) 図 2-7(3) (p. 2-6) ※一部加工

③伊那山地トンネル（青木川工区）

公表：（修正後）令和5年1月25日
（現行）平成30年10月

（1）事業概要等

- ① 名称 中央新幹線伊那山地トンネル新設（青木川工区）工事における環境保全について
- ② 事業実施区域 大鹿村 大河原地内
- ③ 工事の概要 本坑トンネル掘削工、非常口トンネル掘削工、**調査用トンネル掘削工**、工事施工ヤード整備工 **※赤字の内容を追加**
- ④ 修正の内容 中央構造線周辺の断層破碎帯区間における工事計画を深度化した結果、中央構造線部において、より安全に工事を進めるため、調査用トンネル掘削工を追加

（2）修正に伴う環境の変化

○水資源

調査用トンネル掘削工により地下水の予測検討範囲が追加になるが、大きな範囲の追加はなく、影響は小さいと予測。

○その他の環境要素

環境影響の著しい増大は想定されにくい。

➡ 現時点では、修正により環境影響の著しい増大は想定されないと見受けられる。また、従前の計画から工種や施工方法等の変更はなく、事業実施区域の著しい増大は想定されない。

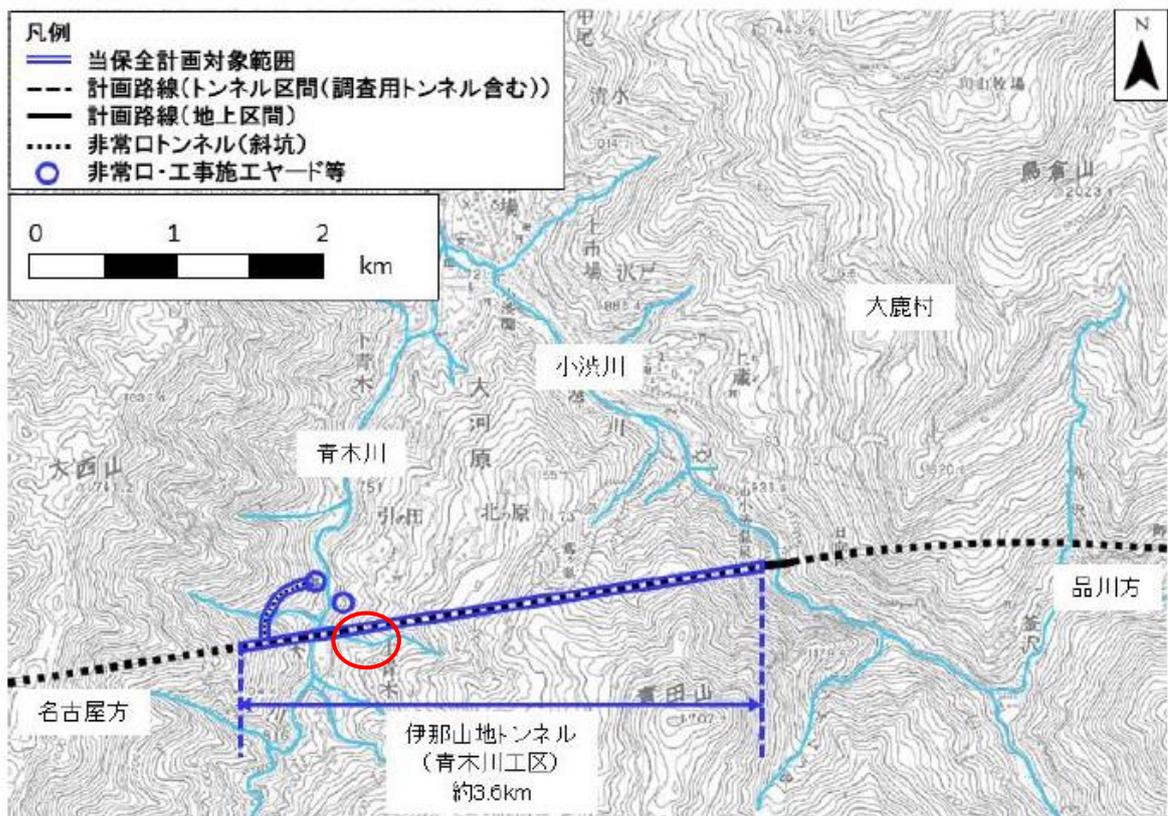
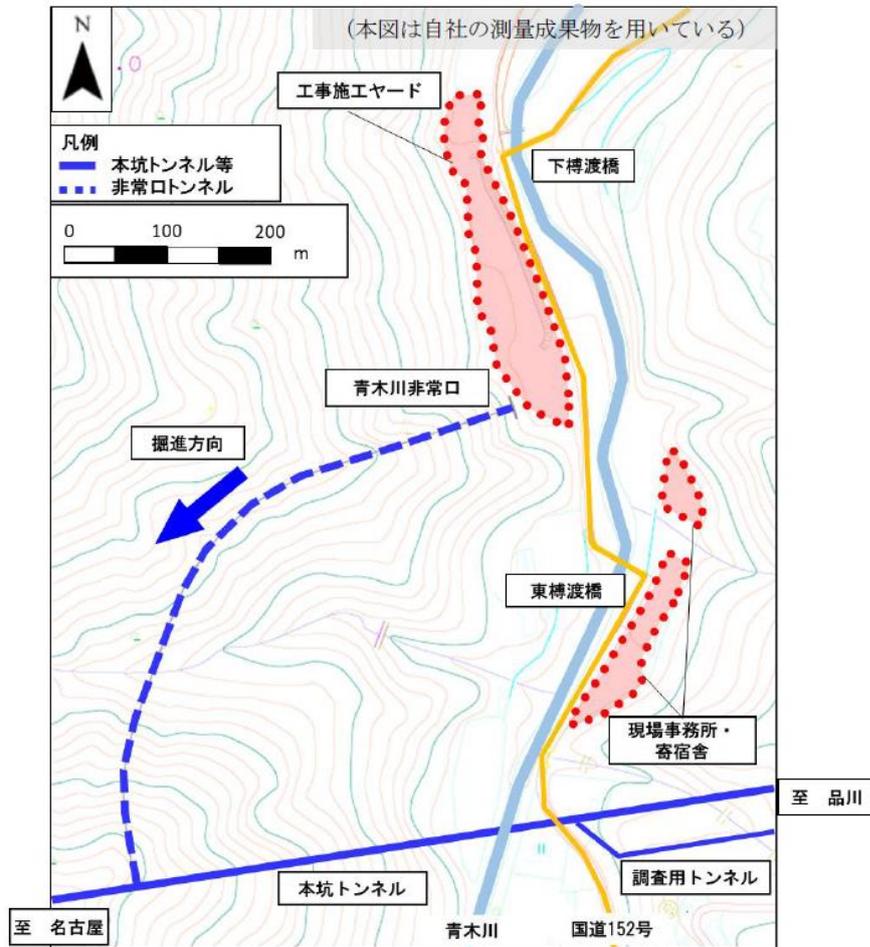


図 3-1 全体工事計画

※追加する調査用トンネルは赤色の丸付近。

出典：「中央新幹線伊那山地トンネル新設（青木川工区）工事における環境保全について（平成30年10月）」（令和5年1月25日差替版）図2-1（p.1）※一部加工



※調査用トンネルは地質状況に応じて位置等が変更になる可能性がある。

図 3-2 調査用トンネル位置図

出典：「中央新幹線伊那山地トンネル新設（青木川工区）工事における環境保全について（平成 30 年 10 月）」（令和 5 年 1 月 25 日差替版）図 2-2（p.2）